

学位論文審査の結果の要旨

要 旨

本論文は、中国の野菜生産における農薬使用の実態と農薬規制がもたらす生産、消費、貿易への影響を究明した実証研究である。改革開放体制への移行以来、中国の野菜生産においては、生産性の向上と美しい外観を求めて農薬の使用量が増加を続けているが、残留農薬問題もしばしば起こっており、農薬規制も行われている。所得上昇に伴って、消費者の安全な野菜への関心が高まっているが、生産現場では農民の農薬に関する知識が十分でなく、毒性の高い農薬が使用され続けている実態もある。野菜輸出においては、輸入国の残留農薬規制によって中国の野菜輸出の減少が起こっており、この輸出減少は規制農薬数増加の影響を大きく受けること、国内での残留農薬規制の厳格化は、中国の野菜輸出を増加させること、流通野菜の安全性を高めるためには、農民の農薬使用知識の普及を図り、食の安全性の検査機能を高めて、政府の安全性保証に対する消費者の信頼性を高めることが有効であることなどを明らかにしている。

本論文は、中国の野菜生産における農薬使用の実態とその改善課題に関する多くの新しい知見を提供しており、現地調査も踏まえて、それを導き出すための実証分析も適切であり、公表論文も規定を満たしている。本学位論文審査委員会は、全員一致で本論文が博士（農学）の学位を授与するに十分な水準を満たしているものと判断し、合格と判定した。